

# 幼児向け運動あそび用教材 「ダンスとてあそび」の開発

Development of teaching material “The Dancing &  
Finger playing” for infant

川 端 悠

**要約** 本研究は子どもが好奇心を掻き立て体を動かす楽しさを知ることができる運動あそび用教材「ダンスとてあそび」の開発を目的とした。対象は3～5歳の男女児。開発した「ダンスとてあそび」は音楽、美術、体育の教員が連携し、ダンスおよび手遊びが計10曲収録され、八戸学院短期大学の附属幼稚園である3園へ配布され保育現場で使用されている。今後は時代のトレンドを考慮しつつも伝承遊びを広められるよう継続的に開発していくことが理想と考える。

## I はじめに

八戸学院短期大学幼児保育学科は保育士ならびに幼稚園教諭の養成を主目的としている。このため実践的指導スキルを持った教員が多数所属しており、各分野に精通した教員が容易に連携を取れることは本学科の強みでもある。

本研究は音楽、美術、体育の教員が連携し幼児教育教材を開発することが目的であった。

幼児期運動指針<sup>1)</sup>において幼稚園、保育所などに限らず、家庭や地域での活動も含めた

一日の生活全体の身体活動を合わせて、幼児が様々な遊びを中心に、毎日、合計60分以上、楽しく体を動かすことが望ましいと記載されている。特に幼児期における運動については、適切に構成された環境の下で、幼児が自発的に取り組む様々な遊びを中心に体を動かすことを通して、生涯にわたって心身ともに健康的に生きるための基盤を培うことが必要である<sup>1)</sup>。

ベネッセ教育研究所<sup>2)</sup>の報告では幼児が幼稚園や保育園で過ごす時間が近年延長してい

ると報告している。これにともない家庭での遊びの時間は減少しており、幼稚園や保育園等での運動あそびに対する役割は増加している。本研究は子どもが好奇心を掻き立て体を

動かす楽しさを知ることができる映像教材「ダンスとてあそび」の研究・開発について報告する。

## II 研究目的

本研究の目的は幼児の子どもが体を動かす楽しさを知り、体づくりの支援を行える運動あそび用教材「ダンスとてあそび」の研究・開発であった。幼児期は神経系の発達が著しく、リズムに合わせた全身運動を行うことで

ダンスに対する基本スキルが身につく時期である。この時期の子どもへ安全で楽しく行える「ダンスとてあそび」を利用した体づくり支援を八戸学院短期大学附属幼稚園等へ配布し、幼児教育に寄与することを目的とした。

## III 方法

### 1) コンセプトと概要

- ・コンセプトは幼児が思わず動き出したくなる映像教材である。
- ・幼児が好むパッケージデザインである。
- ・本学学生が出演している。

### 2) 対象年齢

- ・3～5歳の男女児

### 3) パッケージデザイン

幼児の色彩の好みには性差があることが報告されている<sup>3)</sup>。男児は寒色系を好み、女児が暖色系を好む傾向があり、男女ともに好む色は緑色系および青色系であった。よってパッケージのデザインは男女が好む色をメインにデザインを行なった。なお、女性2名は出演してくれた本学の学生である。

### 4) 収録内容

ダンス6曲と手遊び4曲を1曲毎に完結する内容で収録した(図1)。振り付けは伝承

的に伝わってきたものに加え、本学教員が作成したものであった。楽曲等の著作権についてJASRACに使用料を支払い、許諾を受け





図1 「ダンスとてあそび」のパッケージデザイン



図2 振り付け解説書のカット割り



表1 「ダンスとてあそび」収録内容

た。なお、音源にボーカルがないものは学生によって歌入れが行われた。

### 5) 振り付け・解説書

保育士がこのDVDに収録された楽曲を用いて、直接幼児へ指導できるように振り付け



図3 回転系の振り付け

解説書を同封した。この振り付け解説書は動作ごとにカット割りし、歌詞とともに記載した。



図4 友達と一緒に行える振り付け

振り付けは、わかり易さと楽しさを重視し選択・作成された。

ロジェ・カイヨワ<sup>4)</sup>は著書「遊びと人間」

において、遊びを1. アゴン（競争）、2. 偶然（アレア）、3. ミミクリ（模倣）、4. イリンクス（めまい・回転系）の4つに分類している。振り付けの作成においてミミクリとイリンクスは利用しやすいため、振り付けに回転系の動きを取り入れた。また、できるだけ全身を使った運動になるよう、上肢と下肢の連動、下肢・股関節の屈伸、マーチ（足踏み）が多用された。また、友達と一緒にジャンプをしながらのハイタッチや楽曲のテンポを段階的に速くしながら動作も速くすることで、幼児が退屈しないよう振り付けは工夫された。

## IV 今後の課題

1) 「ダンスとてあそび」を見た幼児の反応  
古市<sup>5)</sup>は幼児がダンスの動きを理解して、タイミングよく運動を行えるのは4歳児以降に見られてくると報告している。よって4歳以前の幼児にはリズムや映像的な動きを楽しむ内容が求められる。「ダンスとてあそび」は3歳児からを対象にしたため、CG（コンピュータグラフィック）を用いて、楽曲ごとに映像背景とアニメーションを加えて視覚的に楽曲のイメージを理解できるようにした。しかしながら幼児によって関心の度合いが異なり、すぐ見飽きてしまう子、映像に合わせて踊る子、動かずその場でただ見ているだけの子と様々であった。ダンスや手遊びは身体表現の学習として広く行われているが、幼児にとっては直接保育者が行う方が関心を持って行うため、Face to Faceの保育に勝るものはないことを再認識したが保育の一手段

として利用可能なことも確認できた。今後はより幼児の関心を引くために、1曲毎に完結する内容ではなく、ストーリー仕立てになった「ダンスとてあそび」が望ましいと思われる。

### 2) 楽曲の選定と振り付け

楽曲は全て既存のもので、NHKの子ども向け番組で使用され多くの幼児や保育士が知っている「虹の向こうに」や「バスに



図5 「トゥンバトゥンバ」の映像



図6 「こつつんころころ」の映像

のって」を収録した。一方で意図的に聞き慣れない楽曲も収録した。それは「トゥンバトゥンバ」である。トゥンバ、トゥンバ、イエーイというフレーズと野性的な振り付けが特徴

である。また、マメ、マメ、マメ、マメ、ナンキンマメというフレーズの「こつつんころころ」も幼児に好評であった。ナンキンマメとは落花生のことを差し、振り付けは落花生が畑から収穫される様子を表現している。これらの楽曲は八戸学院幼児保育学科の授業で使用されていたものであり、本学の卒業生が将来この楽曲で保育を行なってもらいたいとの希望を込めて収録した。

今後は本学オリジナルの楽曲と振り付けを作成し、本学だからこそできる幼児向け映像教材を定期的にリリースできるスキームづくりが課題である。

## V お わ り に

本研究で開発した幼児向け運動あそび教材「ダンスとてあそび」は、本学ではじめての取り組みであった。本学が開設されてから今日まで蓄積されてきたノウハウは貴重な宝であり、幼児教育現場で実践されることでより価値を高めてきたものである。人から人へ伝承されてきたノウハウを本研究のようにデジ

タル化し普及することで、幼児教育現場に広まることであろう。今回は始めの一歩であったが教材として教育をかたちにするすることで、本学の存在価値ならびに独自性が地域の方々に認知され、幼児教育の底上げの一端を担えれば幸いであると考えます。

## 謝

本研究は学校法人光星学院イノベーションプログラム等補助金によって実施いたしました。出演いただいた関口綾乃さん、瀬川華蓮

## 辞

さん、福村友香さん、大久保茉姫さん、齊藤萌さん、ならびに関係各位の先生方に心より感謝いたします。

## 参 考 文 献

- 1) 文部科学省：幼児期運動指針. 2012.
- 2) ベネッセ教育研究所：第5回幼児の生活アンケート速報版 [2015年]. 2015.
- 3) 清水隆子：幼児の色彩選好と親のジェンダー意識. 早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊 11(1)、87-95、2003.
- 4) ロジェカイヨワ、多田道太郎、塚崎幹夫：遊びと人間. 講談社. 1990
- 5) 古市久子：幼児におけるダンス模倣の過程について. 大阪教育大学紀要第IV部門 46(2) 193-206、1998.